



工が進む大ホール（7月12日撮影）

広報つるおか特集号「新文化会館特集」

みんなのタクト鶴岡

タクト鶴岡は【「支える 育てる 高める」未来につなぐ芸術文化の拠点】を基本理念とする文化会館整備基本計画に基づき、設計者を公募し、ワークショップ等で多くの方の声を聞きながら、設計をまとめました。

平成26年11月発行の広報つるおか「鶴岡市文化会館改築整備事業特集号」では、改築整備の検討内容や工事入札の経過などを説明しました。今回は、今後の活動や運営、また工事費に関して質問の多い項目をまとめました。

新文化会館の愛称「タクト鶴岡」

タクト（TACT）は Tsuruoka（鶴岡）、Art（芸術）、Culture（文化）、Terrace（集う場所）
鶴岡の芸術文化が集う場所を目指します



市役所側から見た外観（7月8日撮影）

この資料は、鶴岡市議会が平成29年3月23日に議決した附帯決議に基づき発行するものです。

タクト鶴岡の特徴は

何ですか？

まちに開かれた
みんなの文化会館です

タクト鶴岡の建設地は、藩校致道館、大宝館、藤沢周平記念館、鶴岡アートフォーラム、致道博物館、丙申堂などの鶴岡を代表する文化施設が集まった場所で、多くの人が訪れています。また、高等学校や鶴岡タウンキャンパスといった教育・学術機関も集まり、若い人がタクト鶴岡へ気軽に立ち寄れます。

タクト鶴岡の外観に目を向けると、空の色が映り込む金属製の外壁は、周囲の環境に建物が溶け込んでいような印象を与えてくれます。また、分かれながら低く軒先を下げる屋根の形は、例えば単純な箱型の建物よりも圧迫感を和らげ、遠くに望む金峯山や月山の山並みに調和しています。

今後、タクト鶴岡はユネスコ食文化創造都市、日本遺産、食と農の景勝地、東京オリピック・パラリンピックでのインバウンド(訪日外国人旅行)など、様々な機会で鶴岡を訪れる国内外の人の目に触れることになるでし



よう。世界的な建築家が手掛けたタクト鶴岡は、建築デザインそのものが芸術作品として評価されることとなります。また都市景観大賞を受賞した市役所、鶴岡公園周辺の景観を形作っている、その時代ごとの建造物と調和し、鶴岡の優れた建築文化として世界へ発信する建物になることが期待されます。

タクト鶴岡では、管理運営実施計画に基づき、様々な活動を発表する場の機能に加え、多様な芸術文化に触れたり、次世代の担い手を育成したり、地域の独自性を生かした取り組みを創造したりするなど、多彩な事業を展開していきます。また、人が集まり、交流やにぎわいが生まれるようまちの広場としての機能も果たしていきます。

旧文化会館と異なり、タクト鶴岡のエンターテインメントホールは公演のない日も開放し、いつでも誰でも気軽に集うことができる交流の広場となります。

タクト鶴岡の建物も活動も、全て「まちに開かれたみんなの文化会館」を目指していきます。

タクト鶴岡ではどんな
事業をするのですか？

貸館に加え、新たに
自主事業を展開します

タクト鶴岡の貸館事業では、ホールや練習室等を貸し出すことに加え、市民が自ら行う芸術文化活動のサポートに取り組みます。例えば、最新の舞台設備が導入されたステージでの演出について専門スタッフが相談に乗ったり、タクト鶴岡の公式ホームページなどでPRを協力したり、財団などの様々な助成金の情報を提供したりするなど、芸術文化活動が更に活性化するように支援していきます。

新たに展開する自主事業では、グラントオープン公演を皮切りに、国内トップレベルの音楽・演劇・ミュージカルなど多様なジャ

文化会館整備の基本理念：「支える 育てる 高める」未来につなぐ芸術文化の拠点

【文化会館管理運営の6つの基本方針と事業】

活

動の拠点

多様な文化活動を支え、活性化
する機会を創出

■施設提供事業

文化活動の支援事業など

育

成の拠点

未来を担う子供たちや文化活動
を行う市民を育てる機会を創出

■育成事業

次世代・芸術文化団体・地元
運営スタッフの育成事業

創

造の拠点

創造の輪を広げ、新しい文化に
触れる機会を創出

■参加・体験事業

芸術文化の体験事業、市民参
加型の創作事業

鑑

賞の拠点

優れた舞台芸術に触れ、豊かな
心を育む機会を創出

■鑑賞事業

音楽・演劇・舞踊など広範囲
なジャンルの公演など

発

信の拠点

地域資源・魅力を発信し、広く
認知してもらう機会を創出

■地域発信事業

鶴岡の芸術文化情報の蓄積・
発信事業など

交

流の拠点

多様な人々が集い、出会いつな
がる機会を創出

■交流・にぎわい創出事業

連携・交流促進事業、にぎわ
い創出事業

タクト鶴岡の今後の予定

来年3月まで約半年間をかけて備品搬入や舞台設備の操作訓練等を行います。

開館記念事業は、竣工記念式典以降、順次広報やホームページを通して発表します。

平成29年

9月23日 市民向け完成内覧会
9月30日 竣工記念式典
10月1日 市制施行記念式典
10月～12月 小学校音楽交流会
中学校合同音楽会
大規模式典の訓練
避難訓練を兼ねたコンサート

平成30年

1月7日 成人式（市全域を対象）
1月10日 試験利用事業（22事業）
～3月31日
3月中旬 グランドオープン
3月 開館記念事業（約1年間）
4月 貸館開始

ンルの公演を行います。

公演当日には、入場待ちの観客の整理、チケットのもぎり、客席への案内などたくさん
の業務が発生します。タクト鶴岡では、会館
職員と一緒に公演当日の運営を担う市民スタ
ッフの育成を進めていきます。市民スタッ
フとともに、観客を非日常の世界にいざなえ
よう、鑑賞環境を整えていきます。

また、観賞事業だけでなく、気軽に芸術文
化を体験できる事業を行います。ふだん見る
ことができないホールの舞台設備を見学す
るツアーや音楽・演劇など舞台芸術を体験す
るワークショップなどを開催し、新しい芸術文
化の芽が育つきっかけを創っていきます。こ
れらの体験事業の一部はアウトリーチ（タク
ト鶴岡以外の場所で行う活動）として展開し
ます。また中心市街地という立地を生かし、
周辺の文化施設との連携事業も進めながら、
芸術文化活動の裾野を広げていきます。

今秋、タクト鶴岡の公式ホームページを立
ち上げ、自主事業や貸館事業の情報を積極的
に発信しますが、インターネットでは、SN
S（ソーシャル・ネットワーキング・サービ
ス）による情報発信が大きな力を持っています。

例えば、ワークショップの感想を紹介した

り、天気や時間などで違う表情を見せる建物の外観を写真で紹介したりするなど、SNSを通してタクト鶴岡の情報が発信されればされるほど、それが口コミのように広がり、タクト鶴岡の活気にもつながっていきます。

タクト鶴岡は、鶴岡の芸術文化の集う場所を、そして多くの人が集う新たなにぎわいの広場を目指し、市民の文化活動を支えています。関心を持っていただき、さまざまな活動で盛り立てていただければと思います。

維持や保守などのランニングコストの見込みは？

維持管理費は約1億4千万円を見込みます(人件費・事業費除く)

全国の文化施設の年間維持管理費に関する調査や設計者の試算によると、平成30年は、光熱水費や設備管理点検、舞台設備管理、清掃の費用の合計で、年間約1億4千万円を見込みます。人件費と事業費を含めると、合計で約2億円を見込みますが、職員数や自主事業数等によって変動します。

また後年、機器等の修繕や設備更新、内外装の改修等の費用が別に発生します。

収入確保の手段は？

経費削減とともに、助成や寄附、協賛金など外部資金を活用します

全国の公立文化施設と同じように、タクト鶴岡の運営費は使用料収入だけで全てをまかなうことができません。そのため市による一定の公費負担が生じます。効率的・効果的な管理運営を徹底し、継続性のある安定的な運営を目指します。

適切な経費削減や創意工夫のある収益事業、広告収入などの経営努力に取り組むほか、公的機関の助成やネーミングライツ（命名権）、スポンサーなど、協賛金や寄附等の外部資金の獲得に努めます。

グラントオープン後は原則として、定期休館日は設けず、公演がないときも開館します。その分、維持経費がかかるため、部分空調やLED照明など省エネ効果が高い設備やシステムを導入しています。

ここからは、タクト鶴岡の事業費の推移や市の財政への今後の影響などを説明します。

タクト鶴岡を建てる経費は全部でいくらですか？

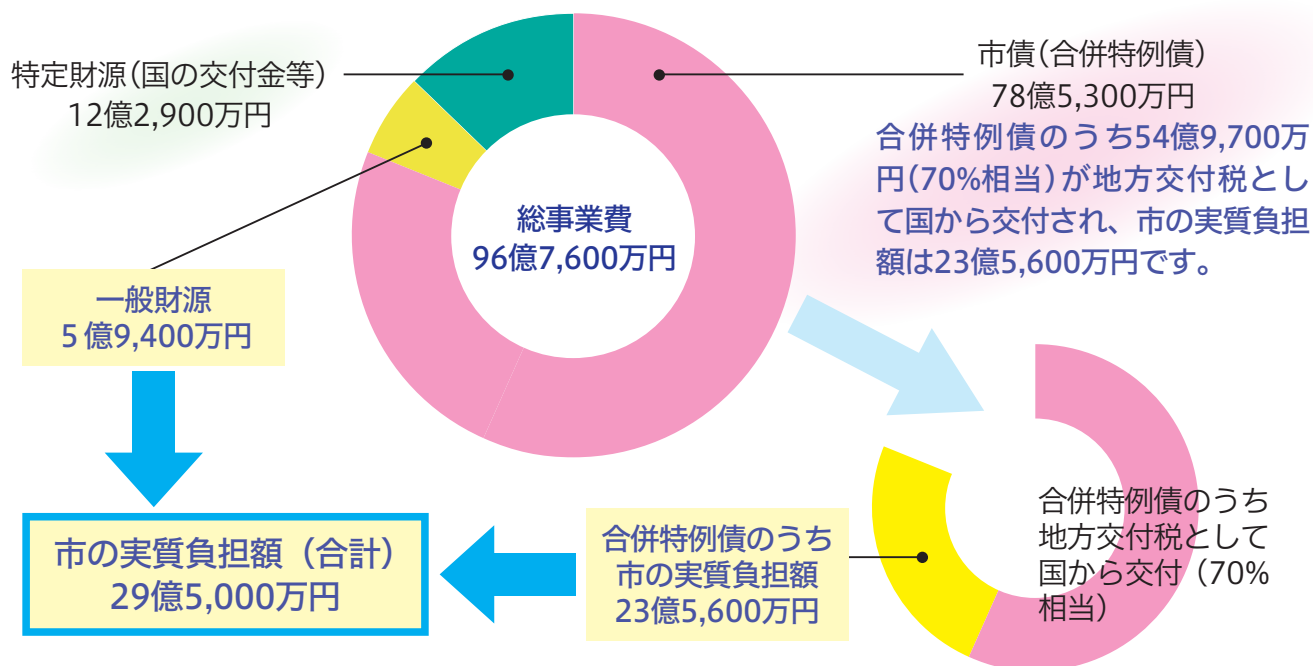
総事業費は約96億8千万円です

タクト鶴岡をどのような会館にするかを話し合うため、平成23年度に市民、有識者、各団体・組織の代表者で鶴岡市文化会館整備検討委員会を組織しました。検討内容を鶴岡市文化会館整備基本計画としてまとめ、本体工事費、設計費、解体費、備品購入費など事業の大枠を45億円と試算しました。

この試算は平成11年〜20年度開館の座席数が同規模の公立文化施設の平均床面積単価を根拠としたものです。建設物価は長い間下がりが続き、また労務単価も十数年間で一番低かったことが、この試算額に影響しています。その後、東日本大震災の復興需要や東京オリンピック・パラリンピックの建設需要が増え、建設物価や労務単価が平成24年を境に急上昇しました。また平成26年には消費税の引き上げも行われました。

タクト鶴岡と同じ頃に計画された他の公共施設整備に関する事業費も大幅に上昇し、全

◆タクト鶴岡の総事業費と財源内訳



国で入札不調が多発していました。本市でも積算の点検や見直し等を本体工事費に反映させ、総事業費を約85億7千万円としました。

その後、将来の財政負担を低減し、また安全性や利便性を高めるための設計変更による工事と契約のインフレスライド条項の適用で、本体工事費では約6億円が増額しました。

最終的には、本体工事費、商工会館等の解体補償費、舞台備品等の備品購入費、測量・地質調査・設計・工事監理費、外構工事費、サイン・舞台設備等追加工事費を合わせた約96億8千万円が総事業費です。

約96億8千万円のうちの市の負担額はいくらですか？

合併特例債等を活用し、実質的な負担は約29億5千万円です

上にある円グラフのとおり総事業費の財源内訳は、国の交付金等が約12億3千万円、合併特例債(借入金)が約78億5千万円、市の一般財源が約5億9千万円です。合併特例債は、借入額の7割が地方交付税として国から交付されますので、市の実質負担は約23億6千万円で、一般財源と合わせて約29億5千万

円が市の総負担額です。合併特例債で市が負担する約23億6千万円の償還が将来の負担となりますが、償還期間は1年据置き15年間を予定していますので、単純に14年で割った場合、単年度の市の実質負担額は約1億7千万円と試算しています。

一般的に文化会館のような施設の整備では、利用できる有利な国の補助制度や交付税措置のある市債がないことから財政負担が重くなります。本市の場合、市町村合併のメリットである合併特例債を活用できたこと、また本市の合併特例債の活用期限である平成32年度までに改築工事を行うことができたため、財政負担を大きく軽減することができました。

本市では、合併特例期間が平成27年で終わり、これまで受けてきた交付税の優遇措置は段階的に削減され、合併特例債も平成32年度で利用できなくなります。そうした状況に備え、決算剰余金の基金積立(平成28年度末残高約17.1億8千万円)や借入金の繰上償還等に積極的に取り組み、財政の健全性を将来にわたって維持できるよう努力してきました。

なお、文化会館の事業に関連して地方税法や市税条例に定められている現在の税率を変更することはありません。

※工事請負契約後の労務単価の改定や資材費高騰等に応じて、請負代金額の変更を請求できる条項

設計変更でどれだけ将来負担が軽くなりますか？

60年間で約6億2千万円の経費削減が期待されます

今後、タクト鶴岡は芸術文化の拠点施設として役割を果たしていくわけですが、長年の使用の中で、建物や設備そのものが古くなって一部を新しい物に替えたり、壊れたところを直したりする費用が発生します。

このような数年や数十年後に発生する修繕や改修等の工事費は、その時々市の一般財源で対応しなければなりません。タクト鶴岡では、国からの財政支援がある合併特例債が活用できる初期投資で、将来の想定される改修や修繕等の財政負担が軽くなるよう、また利用者の安全性等が高まるよう、構造や工法等を変更しました。

変更内容は、屋根下地の変更やメンテナンス設備の追加、天井下地の変更、地中障害物の除去などで新たに工事費用が発生しました。そこで、掘削する土の量を減らしたり、ガラスや建具、内装など建物の機能を損なわずに利便性が良くなるよう工事を調整したり、施

工の効率性を高めたりするなど費用の抑制に努めました。インフレスライド条項の適用も含め、本体工事費の最終契約額は約84億8千6百万円です。

将来の財政負担の低減等に関する工事の一つ目は、屋根の下地について木片をセメントで固めたボードからコンクリートに替えるものです。この変更によってボードよりも硬く丈夫になるため、積雪や風圧に耐え、長く持ちこたえる耐久性の高い屋根になり、将来に想定される修理費を安く抑えることができます。

もう一つは、天井裏、舞台、外壁、屋根等の点検通路など保守点検用の設備等を追加するものです。この工事で定期的に必要な点検やメンテナンスの費用の削減につながります。そのほかの検討も加えると施設の耐用年数の一つの目安である60年間で、最大で約6億2千万円の経費削減につながると見込んでいます。

安全性の向上に関わる工事では、大ホール客席の天井の下地と廊下の木製格子の取付け方法を見直しました。その結果、大地震発生時でも天井や格子が外れる危険性を取り除くことができました。

みんなのタクト鶴岡を 目指して

この特集を読んで「タクト鶴岡でこんなことをしてみたい」「こんなサポートがあったらうれしい」「こんな会館に育ってほしい」など、ぜひ声をお聞かせください。

来年3月にタクト鶴岡はグランドオープンを迎えます。10月2日①から来年3月31日④までの平日と催事のある土曜・日曜日、祝日は、午前9時から午後7時までエントランスホールを開放します。ぜひ足を運んでみてください。

タクト鶴岡は市民の皆様の多彩な文化活動を広げる総合拠点として、その歴史を歩み始めます。

【問合せ】

◎管理運営に関するお問い合わせ

タクト鶴岡開館準備担当 ☎24 - 51188

◎建設工事に関するお問い合わせ

本所建築課 ☎25 - 21111 内線405